



HOKKAIDO UNIVERSITY

Title	ドッケビに見る儀礼と説話 : 全羅南道海岸地域、全羅北道内陸部地域を中心に
Author(s)	林, 由梨奈
Citation	北大宗教学年報, 5・6合併号, 2-14
Issue Date	2025-08-31
Doc URL	https://hdl.handle.net/2115/95887
Type	departmental bulletin paper
File Information	5_6_01_p2-14.pdf



ドッケビに見る儀礼と説話

ー全羅南道海岸地域、全羅北道内陸部地域を中心にー

林由梨奈

1. 研究背景と目的

「도깨비(ドッケビ)」は、韓国/朝鮮の小さい子どもから老人にまで広く知られている非常にポピュラーな存在であり、人々の語る昔話に登場する妖怪や鬼、魑魅魍魎、そして信仰の対象となり得る精霊や雑神などとカテゴライズされる。ドッケビのあり方は非常に多様であり、民間信仰においては豊漁/豊穰の神あるいは疫病神/火災神として、また説話においてはいたずら好きで時に人間に騙される滑稽な姿を見せることがあるほか、近年では恋愛ドラマの主人公や地域のご当地キャラクターなどとして様々な姿かたち、性格を示している。

これまでに説話や儀礼・信仰との関連、視覚イメージ、他の妖怪との比較など、さまざまな視点からドッケビの研究がなされてきたが、説話に登場するドッケビと儀礼の対象となるドッケビは異なるレベルで論じられることが多く、これらを結び付けて関係性を論じた研究はあまり多くない。そこで、修士論文では、架空の存在である「ドッケビ」を創出し、説話を語り継ぎ、儀礼を行ってきたのが同じ民衆であるならば、説話と儀礼にあらわれるドッケビは結びつけて論じることが望まれるのではないかという立場から、説話の中のドッケビと、信仰や儀礼におけるドッケビの関係を考察することを目的とした。先行研究において、海岸地域ではドッケビを豊漁神として祀る一方で、内陸部地域ではドッケビを疫病神や火災神として追い払う儀礼を行う、というように、海岸地域と内陸部地域ではドッケビに対する認識のあり方が異なることが明らかにされてきた。ゆえに、儀礼におけるドッケビへの態度が異なる海岸地域と内陸部地域それぞれの説話を比較検討し、両地域の説話間の差異や類似点を明らかにすることが、説話と儀礼にあらわれるドッケビの関係を考察することに結びつくと考えた。

～説話などに登場するドッケビの基本的特性～

ドッケビは善良な人に富を授ける一方で欲深い人には罰を与えることがあり、一人暮らしの若い女性のもとに通って財物を貢ぐ好色な面がある。相撲を好み、時に人間を惑わしたり悪戯をしたりする。馬の血などを恐れて逃げ出す臆病な姿を見せる一方で、出会ったことが原因で人を死に至らしめる恐怖の存在でもある。朝鮮戦争以前にはよく現れたが現在は姿を消してしまい、過去存在として人々に語り伝えられている。

2. ドッケビを対象とした儀礼

○富神性を有するドッケビ¹

・ドッケビが富神性を有する存在として認識されるのは、主に西海岸～南海岸にかけての漁業関連地域である。

・豊漁を祈願する儀礼は、個人単位で行われるものと、共同体単位で行われるものがあり、個人単位では、告祀と呼ばれる儀礼を行う。告祀は、小さな祭場あるいは船の上などで、メミルムクやメミルボンボクといった蕎麦粉を蒸し固めて作った食べ物を供えて（あるいは撒いて）豊漁を願う比較的簡単な形式の儀礼である。

・個人単位の告祀を行う地域としては、全羅南道新安郡、全羅南道唐津郡、全羅南道麗水市が挙げられる。

・なお、ドッケビは「告祀に対して応分の対価」すなわち大漁を与えてくれるものの、告祀がない場合には、「裏切られたと思い、魚を網の張っておいたところに追い立てず、逃がしてしまう」²と考えられているようだ。

・共同体単位で行われる儀礼は갯제（ケッジェ）と呼ばれるもので、個人単位の告祀に比べて多様な様相で存在している。

・全羅南道高興郡の羅老島で行われているケッジェにおいては、家単位で30～60 cmの小舟を作り、その中にろうそくや松明の火を灯して海に浮かべ、流れていく小舟に対して人々は、「小舟よ、小舟、今年の私の厄をすべて持って行ってしまっ、て、寿命や福を持って来ておくれ」などと叫ぶ。

・全羅南道康津郡の大邱地域では「水産物と呼ぶ」型のケッジェが、正月14日の満潮の頃に行われており、祭儀の主体は女性である。祭儀は、「供物を整える－献杯および、再拝－[祭壇の]構築－食べ物を供える－歌を歌いながら円陣」、の順で執り行われる。「牡蠣も、あさりも……コノシロもタコも……すべて町に上って来てください」という、まさにさまざまな水産物と呼ぶ内容の歌が歌われる。

・しかし、キリスト教が広く信仰されるにしたがって、ドッケビという一種邪神に対する儀礼は衰退しつつあるようだ。

○災厄をもたらすドッケビ³

▷疫病神としてのドッケビ

・ドッケビが疫病神と認識され、これを祓う儀礼としては全羅南道珍島や全羅南道淳昌郡のドッケビクツが有名。

・珍島のドッケビクツでは、女性たちが集まり、長い竹竿に女性の下着を逆さまに被せ、

¹ 金宗大 2003、송기태（ソン・ギテ）2011 より。

² 金宗大 2003, pp.51-53。

³ 張籌根 1969、金宗大 1997; 2003、김월덕（キム・ウォルドク） 2007 より。

真鍮製の容器や銅鑼などを叩き鳴らしながら町内を歩き回る。このとき、下着は女性の月経の血がついたものが主に使用されるのだが、これはドッケビが女性の経血を恐れるという俗信が理由であると考えられている。

・全羅北道淳昌郡の塔里では、正月の初めにその年の伝染病の流入を防ごうとする目的で女性主体のドッケビクツが行われ、村の東西南北 4 ケ所の入り口にあたる部分で、各所に蕎麦粉で作ったメミルムクを供える。ドッケビたちをよくもてなし、食べさせることで一年病がもたらされないように祈願する意図があると考えられている。

▷火災神としてのドッケビ

・ドッケビを火災神と認識し、これを祓う儀礼を行う地域としては、全羅北道井邑市、全羅北道鎮安郡、全羅南道任実郡などが挙げられる。

・全羅北道井邑市北面の五柳里では、陰暦 2 月 1 日に女性主導による村クツが行われる。女性たちは下着を頭にかぶって踊り、楽器を鳴らしながら村を一周して堂山へ移動、メミルムクなどの供え物をして祝詞を読み、読経をして、紙を燃やし上げながら村と家庭内の安寧を神に祈り、最後に供え物を皆で食べるという流れで現在の村クツは進行する。

・五柳里の下着踊りでは月経の血が付いたものではないが、女性による同様の呪術的機能を有したものだとして分析されている。なお、五柳里の村クツには、火災を起こすドッケビをなだめて祓うこと、そして恨みを抱いて無念に亡くなった者の魂を慰めることの二つの意味が付与されているようだ。

・全羅北道鎮安郡白雲面盤松里では、村に火災が発生しないことを願って、ドッケビを主神とした「ドッケビ祭」/「ドッケビ告祀」を行う。未婚の女性を除いた女性たちが集まり、楽器を鳴らしながら祭祀場所へと移動し、メミルムク、肉、果物、酒、ご飯やスープなどの供え物を整え、女性たちは皆でお辞儀をして、各自で紙を燃やし上げる。

・全羅北道任実郡館村面上月里では、「김세환 (キムセファン) 祭」あるいは「ドッケビ祭」と呼ばれる儀礼が行われていたが、現在は伝承が途絶えてしまった。この儀礼においては、女性たちが中心となってご飯、スープ、メミルムク、あずき粥などを準備して、出席した女性たちが皆でお辞儀をする。村として紙を燃やし上げ、祈りを捧げる。周囲の田に供え物の一部を撒く。キムセファン祭を行う目的も、村に火事が起きないことを祈ることが主であるが、このほかに、外地に出ていった子どもたちの無事を祈る意図があったようだ。

・全羅北道任実郡館村面の九岩里では、火の使用が増え、火事の危険が高まる初冬の 10 月 30 日に、火災の原因となるドッケビをなだめるためのクツが行われる。第一の祭儀場所で席を整え、供え物を並べ、里長が 3 回お辞儀をしてお祈りをした後、祭官が供え物の一部を周囲に撒く。第二の祭儀場所へ移動し、同様に 3 回お辞儀をして、その度に献杯を行った後、周囲に供え物を撒く。

・内陸部地域では一度火災が起これば村が廃墟になってしまう場合もあり、火事を防止することは切実な願いであった。

3. ドッケビ関連説話の分析

『韓国口碑文学大系』⁴データベース<<http://gubi.aks.ac.kr/web/Default.asp>>を資料として、下記の地域の説話分析を行った。

ドッケビを祀る儀礼を行う地域・・・全羅南道新安郡 6 話、全羅南道高興郡 3 話、全羅南道康津郡 28 話、全羅南道麗水市 28 話【全 65 話】

ドッケビを祓う儀礼を行う地域⁵・・・全羅北道淳昌郡 1 話、全羅北道任実郡 1 話、全羅北道井邑市 2 話、全羅北道鎮安郡 5 話【全 9 話】

○海岸地域のドッケビ説話

説話内容を大きく分類すると、ドッケビが人を惑わしたり悪戯する (13 話)、ドッケビ火を見た (8 話)、ドッケビを相撲を取ったり喧嘩する (7 話)、ドッケビの行為で人間が富を得る (6 話)、ドッケビの見た目や性質に言及 (6 話)、ドッケビの成り立ち (3 話)、漁業活動中に見たドッケビ船 (3 話)、ドッケビ関連の村の風習 (3 話)、ドッケビが女性の家に通い追い出される (2 話)、ドッケビ火が現れると魚がよく獲れる (2 話)、ドッケビ火の正体 (2 話)、その他 (10 話)。

ドッケビの出現時間は、夕方以降～夜 (24 話)、昼 (1 話)、明け方 (1 話)、その他言及なし。ドッケビの出現空間は、夜道 (10 話)、海辺 (8 話)、田畑 (6 話)、家 (5 話)、山・峠・谷 (4 話)、川辺 (3 話)、貯水池付近 (2 話)、共同墓地 (2 話)、その他言及なし。

ドッケビと出会う環境は人気のない夜間が大半であるが、場所は普段往来する道や、生業である漁業と結びついた海など、人間が生活するすぐ側である。

ドッケビ説話は経験談の形で語られることが多いということが、先行研究によりしばしば指摘されていることから、本人が実際に経験した内容を語った「直接経験」、家族や友人、村に住む人が経験した内容を聞き語ったものを「間接経験」、ある人が…のように経験の所在が明らかでない者を「その他」とし、分類した結果が次の表である。

⁴ 『韓国口碑文学大系』は、韓国の国立大学院大学である当時の「韓国精神文化院」(現在の「韓国学中央研究院」) 語文研究室が中心になり、1979～1984 年にかけて全国 60 の郡を対象に説話・民謡・巫歌などの口碑文学を収集した資料集であり、1988 年に全 82 冊で完成された。2008 年からは保管された録音資料を含め『韓国口碑文学大系』をデジタル化し、ホームページ上での公開を行っている。

⁵ 全羅南道珍島の説話は『韓国口碑文学大系』データベース上に採録されていなかったため、除外した。

【表 1 海岸地域におけるドッケビ説話の説話形態】

	直接経験	間接経験	その他	計
新安郡	0	3	3	6
高興郡	0	1	2	3
康津郡	6	12	10	28
麗水市	8	11	9	28
計	14	27	24	65

新安郡、高興郡はその他の割合が多いものの、全体数で見ると直接経験・間接経験の合計は 41 話、対してその他は 24 話であり、経験談の形態で語られることが多いことが分かる。地域に身近な場所がドッケビの出現空間とされるのは、自分あるいは身近な人物による経験談の形式で説話が語られることと関連があるだろう。

続いて、説話にあらわれるドッケビの形態を分類したものが次の表である。

【表 2 海岸地域におけるドッケビ説話のドッケビ形態】

	人型	ドッケビ火	ドッケビ船	その他	計
新安郡	6	0	0	0	6
高興郡	2	1	0	0	3
康津郡	11	7	0	10	28
麗水市	14	7	3	4	28
計	33	15	3	14	65

全体を通して、ドッケビは人型の形態で語られることが多い。なお、人型のドッケビの描写は、「背が非常に大きい」、「頭が大きい」など、断片的な特徴であり、顔つきなどが詳細に述べられているものはほとんど見られなかった。続いて、ドッケビ火が多く見られ、特に漁業との関連が深い、ドッケビ火が現れたところで魚がよく獲れるという説話が注目される。また、ドッケビ船は、実体がなく、普通の船とは異なる幽霊船のようなもので、ドッケビの一形態であると考えられている。「船」であることから分かる通り、漁業と結びついて語られる。

以下、海岸地域に特徴的であった説話を抄訳したものをいくつか示す。

慶尚南道昌寧郡で漁業をして失敗をした男性が、この前にある甌島という島に引っ越して、人里離れた小屋で暮らしていた。大晦日の夕方になると船で告祀を過ごす習慣があるのだが、ある家の長男が酒や餅、肉などをたくさん準備してきていたので、その男性も告祀を過ごそうと向かった。告祀が終わり皆行ってしまったので、その男性は一人

で取り残されたのだが、堤防に何故だか、非常に背の大きな人が一人立っている。その人が男性の方に向かってきたので、「誰だか存知上げないが、この船に告祀を過ごすための酒もあり、餅もあるので、よければ召し上がっていきますか？」と尋ねた。すると、その人は「はい」と返事をして、やって来て、すべて食べたのだが、どういうわけだか食べている側で黄色い煙が出ていて、男性は耐えることができなかったという。そのようにして別れて、男性は自分の家に帰った。正月 15 日になり、寒い夜に部屋に戻ろうとすると、自分の畑に数十人の人が行ったり来たり、大騒ぎをしているのが見えた。外に出ると、数十人が糞尿を畑に撒いている。どういうわけかと思っていると、一人がやって来て、「大晦日の晩に、あなたが告祀を過ごして、酒や餅、食べ物を私に振る舞ってくれたでしょう。私はそれをいただいたドッケビです。今日は恩を返しに、隣から糞を持って来て、畑に与えているのです」と言った。そうして 3 年、畑は穀物をよく実らせ、また、男性の船では道具が良いわけでもないというのに、ウナギもぎっしり獲れるのだという。男性は 3 年経って金持ちになり、甌島で今まで暮らした。ドッケビが人間業ではない業を用いて、魚をよく手に入れられるようにして、金持ちになって暮らしたという、嘘ではない、実際の話だ（下線部筆者）⁶。

これは、告祀儀礼の食べ物を分け与えてもらったドッケビが、そのお返しに富をもたらす説話である。

[採録者による「ドッケビ火が現れるところには、魚がたくさん獲れるということはあるか」という問いかけに応じる形で]そんな話を私たちも聞いて知っている。海に魚を獲りに行くと、大きな花畑のようになっていて、後で行ってみると、それはドッケビがそこで火をたくさん起こしていたものだ。船でその火に付いて行くと、大漁になった。そんな伝説があるが、先祖の代の話であって、私たちはよく知らない（下線部筆者）⁷。

これは、ドッケビ火が見えたところで魚がよく獲れるという漁業に関連の深い説話である。

もう既に亡くなってしまったが、おじいさんの話によると、昔はドッケビ火、ドッケビ船がたくさんいたようだ。昔は風に頼って動かすような船に乗って魚を獲りに行っていたのだが、突然、同じ形の船が突然現れることがあり、その船が自分たちの下に現れるもの

⁶ 前掲『口碑文学大系』データベースより、提供者：마영식, 全羅南道高興郡占岩面, 1983 年 8 月 1 日採録, G002+AKS-UR20_Q_1121_1_F_043。

⁷ 同資料より、提供者：제송용, 全羅南道麗水市華井面, 2011 年 2 月 11 日採録, GUBI+06_12_FOT_20110217_LKY_JSY_0003。

であれば、引導してくれる船であり、自分たちの船の上に現れると、害を与えるのだと、そんな話があったそうだ（下線部筆者）⁸。

これは、ドッケビ船が自分たちの漁船の下に現れると安全に案内してくれ、上に現れると危害を与えるという説話である。船乗りたちは航海において危険や恐怖と直面する状況にあり、その恐怖の対象としてドッケビ船を認識すると同時に、むしろこれを守護神と捉えることで恐怖から抜け出そうとする、ある種の願いを反映したものだ⁹と捉えることが可能かもしれない。

[採録者の「ドッケビが嫌うものは何か」という質問に対して]メミルムク、メミルボンボクを作って、浴びせて、雑鬼は皆あっちへ行ってしまうと言う。ドッケビ火が出るものは雑鬼だ。[聴衆「元旦や 15 日には、若い人もそのようにする」]メミルムクやメミルボンボクを作って振り撒くと、鬼神を追い出すことができる（下線部筆者）¹⁰。

[採録者が「ドッケビが何かムクが好きだ」と述べたことに応じて]昔はおばあさんたちが、何か宴会などがあると、わざわざメミルムクを炊いた。私の家でもおばあさんとお母さんと、メミルムクを炊いた。そして外に「たくさん食べていけ」と言いながら撒いたものだ。昔はどの部落にもかわらずそのようなことがあった。[採録者がドッケビが嫌いなものについて尋ねたことに対して]ドッケビが嫌いなものなのかはよく知らないけれど、赤い冬至粥、あずき粥を炊いて、家の後ろや部屋に撒くと、[ドッケビを含む]鬼神や雑鬼が取りつかないという（下線部筆者）¹¹。

上記二つの説話においては、同じメミルムクを撒くという風習について述べたものだが、一方はドッケビを祓おうとしており、もう一方はドッケビに好物を与える内容である。先に確認した通り、海岸地域ではドッケビを祀る儀礼を主としている。それゆえ、上記のような説話は、形式的な儀礼・風習に後付けされる形で伝承されたのではないかと考えられる。

○内陸部地域のドッケビ説話

⁸ 同資料より、提供者：강중방, 全羅南道麗水市三山面, 2010 年 8 月 20 日採録, GUBI+06_12_FOT_20100820_LKY_KJB_0004。

⁹ 류경자 (リュ・ギョンジャ) 2017, pp138-139。

¹⁰ 同資料より、提供者：이현엽, 全羅南道麗水市三山面, 2010 年 8 月 20 日採録, GUBI+06_12_FOT_20100820_LKY_LHY_0003。

¹¹ 同資料より、提供者：박문규, 全羅南道麗水市召羅面, 2011 年 1 月 24 日採録, GUBI+06_12_FOT_20110124_LKY_PMY_0009。

説話の内容を分類すると、ドッケビにより人間が富を得る (2 話)、ドッケビが女性と暮らして追い出される (2 話)、ドッケビが相撲を挑む (1 話)、ドッケビが人間を惑わす (1 話)、ドッケビ火に関するもの (1 話)、ドッケビに魚をもらう (1 話)、ドッケビが雨を予言する (1 話) であった。

ドッケビの出現時間は夕方以降～夜 (8 話)、時間帯の制限がないもの (ドッケビが夫として登場) (1 話) であった。出現空間は、家 (3 話)、山 (2 話)、川辺・防川堤の側 (2 話)、道路 (1 話)、路村 (1 話)。

これらには、ドッケビの出現環境として海辺が見られない。いずれも、海に面さない内陸部地域における身近な環境がドッケビの出現空間となっている。

海岸地域の説話と同様に、ドッケビ説話が語られた形態を分類したものが表 3 である。

【表 3 内陸部地域におけるドッケビ説話の説話形態】

	直接経験	間接経験	その他	計
淳昌郡	0	1	0	1
任実郡	0	1	0	1
井邑市	0	0	2	2
鎮安郡	0※ ¹²	3	2	5
計	0※	5	4	9

主題として直接経験談の形で語られた説話はなく、間接経験談は 5 話、その他が 4 話という結果であった。韓国国内で有名な「ドッケビ砵」という説話やドッケビが女性のもとに追い出される説話が複数採録されていることから、経験談以外の割合も比較的高いことが分かる。

また、説話において登場するドッケビの形態を分類した結果は次の通りである。

【表 4 内陸部地域におけるドッケビ説話のドッケビ形態】

	人型	ドッケビ火	ドッケビ船	その他	計
淳昌郡	0	1	0	0	1
任実郡	0	1	0	0	1
井邑市	2	0	0	0	2
鎮安郡	4	0	0	1	5
計	6	2	0	1	9

¹² 説話の主題を考慮し、間接経験に分類した 1 話において、昔は防川堤の側にドッケビ火が見えた、と説話提供者本人の経験に言及する箇所があった。直接経験談が一切ないわけではないことを示すために※印を付与している。

内陸部地域においてもドッケビの形態は人型が最も多く6話、続いてドッケビ火が2話、その他が1話という結果になった。注目すべきは、ドッケビ船の形態が見られなかったことである。ドッケビ船は特に漁業との関わりが深いことから、海に面さない内陸部地域にはこの類型の説話が分布していないことが考えられる。また、海岸地域で見られた、ドッケビ火が現れたところで魚がよく獲れるという内容は語られていない。

続いて、内陸部地域に特徴的と考えられる説話をいくつか紹介する。

あるところに貧しい新郎新婦が暮らしていた。新郎は食事を終えるとサランバン[客間を兼ねた主人の書斎]に行き、新婦は一人で針仕事などをしていた。真夜中ごろになり、笠をかぶった若い男性が家の外をうろうろとしている。ドッケビだと気づいた夫婦は話し合い、新郎がサランバンに隠れている間に、新婦が「私と一緒に暮らそう」とそのドッケビを引き留めることにした。

そのようにして暮らしているうちに、新婦の血の気がなくなってきた。ドッケビはお金を新婦のもとにしきりに持って来てくれたので、夫婦はそのお金で田を買っていた。新郎は新婦に、ドッケビの機嫌をとって、何が怖いのかを尋ねるよう指示した。新婦がドッケビから「馬の血が怖い」という答えを何とか聞き出し、その後で夫婦は馬の血を用意し、家の周囲に塗った。するとドッケビは恐ろしがって家の中に入れず、喚いて逃げて行った。

後日ドッケビは砂利を持って来て、夫婦の田に捨てておいた。そこで新郎が「おや、ドッケビが、私たちの田に肥料ではなく砂利を持って来てくれたのか」と喜ぶふりをしたところ、ドッケビは砂利をすっかり取り出し、犬の糞を田に捨てた。また、ドッケビは、田に杭を挿して、「よいしょよいしょ」と言って引っ張っていた。

[当然田は引っ張っても動かず、]そのようにして夫婦は大変金持ちになった（下線部筆者）¹³。

夫婦が謀って一人暮らしの女性のふりをし、ドッケビを積極的に引き留め交際に持ち込んでいる。また、説話の終盤では、嫌がらせに砂利を持ってきたドッケビを再度騙して、肥料となる犬の糞を田に撒くよう仕向けている（＝人間の側がドッケビを積極的に騙している）。また、説話中盤の、ドッケビと暮らすうちに新婦の血の気がなくなってきたという箇所からは、異類であるドッケビと人間が交際することで、人間に健康被害がもたらされるという負の側面がうかがえる。これを、ドッケビを疫病神や火災神と捉える儀礼と直結させる

¹³ 前掲『口碑文学大系』データベースより、提供者：신금순, 全羅北道井邑市笠岩面, 1985年4月27日採録, G002+AKS-UR20_Q_1292_2_F_007。

のは難しいかもしれないが、この関連についての可能性は否定できないだろう¹⁴。

父方のいとこのシンさんという人が、ソウルへ行った帰りに、全洲から歩いて、夜に路村の方に上っていった。そこでドッケビたちが魚を捕まえているところに出会い、「魚を捕まえてどうするつもりなのか?」と尋ねると、ドッケビたちは「旦那様がいらっしゃったよ」と言って、ただそのたくさんの魚をシンさんの道袍[男子が上着の上に羽織る袖が広くて長い礼服]の袖に入れてくれたそうだ。そうしてシンさんはそれを持って帰って来たという、荒唐無稽な話だが、そんな話を聞いたことがある¹⁵。

この説話には魚を捕まえて与えてくれるドッケビが登場するが、ここでは生業としての漁業や漁業に関連した儀礼・風習は登場しない。ドッケビたちはただ魚を捕まえ、通りがかった人間(シンさん)にその魚をプレゼントする。先に確認した海岸地域にはこのような説話は見られず、漁業関連のドッケビ説話とは本質的に異なっていると言える。

4. ドッケビ関連説話と儀礼に関する考察

説話の形態(直接経験・間接経験等)、ドッケビの形態(人型・火・船)、ドッケビが出現する環境などに注目して分析を行った結果は次の通りである。

海岸地域では経験談の形態で語られる説話が多く、これに比べ内陸部地域では経験談以外の形態の説話も比較的多かった。内陸部地域にはドッケビ船の形態が見られず、ドッケビ船は海岸地域に特徴的な形態であると言える。また、海岸地域・内陸部地域いずれもその地域において身近な環境がドッケビが現れる場所として語られており、時間帯は夜が大半であった。さらに、海岸地域においては漁業や漁業関連儀礼と密接に結びついたドッケビ説話がいくつも見られた。内陸部地域において、病や火災と直接結びついた説話は見られなかったものの、漁業地域の同類型の説話には見られない、人間がドッケビを積極的に騙す、ドッケビとの交際により女性が身体的に病む要素が特徴的であった。

海岸地域ではドッケビの富神性、ドッケビと豊漁の関係が強調された説話も見られる一方で、ドッケビの否定的な側面を示し、追い払おうとする説話がある。内陸部地域においても、人間とドッケビとの対立やドッケビの否定的側面が強調された説話が見られる一方で、ドッケビが人間に対して友好的な説話も語られる。ゆえに、海岸地域における説話と

¹⁴ 海岸地域で採録された同類型の説話においては、ドッケビは一人暮らしの女性の家に通い始めるのであり、また、女性が身体的に病むという要素は見られず、単に女性がドッケビを煩わしく思って追い出すという内容であったことから、上記の説話は特徴的であると考えられる。

¹⁵ 同資料より、提供者：정영수, 全羅北道鎮安郡白雲面, 2010 年 2 月 2 日採録, GUBI+07_12_MPN_20100202_KWD_JYS_0001。

儀礼、内陸部地域における説話と儀礼にはどちらも一定程度の関連性を見出すことが可能であり、特に海岸地域では説話と儀礼との結びつきが強いと考えられる。ただし、儀礼の場合には海岸地域＝ドッケビは富神性を有する存在、内陸部地域＝ドッケビは災厄をもたらす存在、と明確な色分けが可能である一方、人々が自由に語り伝えて来た説話においては、そのような枠に留まらない多様なドッケビの姿が見られるため、単純に色分けすることは難しい。

儀礼とは、ある目的をもって行われる行為であろう。海岸地域においては、漁業の成功すなわち豊漁が祈られ、内陸部地域や珍島においては、共同体に病が蔓延しないことや火災が起きないことが祈られた。そのため、人々の祈りに対応する存在としてのドッケビは、海岸地域では豊漁をもたらす富神、内陸部地域においては祓われるべき疫病神、火災神としてあらわれる。他方、特定の目的のためではなく、時には娯楽性をもって語られる説話の中のドッケビは、儀礼にあらわれる性格と一致する場合もあれば、より自由に、多様に、生き生きと描き出されるのではないだろうか。

主な参考資料

- 한국학중앙연구원（韓国学中央研究院）「한국구비문학대계」（韓国口碑文学大系）[データベース資料]（ウェブサービス開始：2008年～）<http://gubi.aks.ac.kr/web/Default.asp>（最終閲覧：2023年1月日）
- 金宗大[キム・ジョンデ]（2003）『歴博ブックレット②④ トケビ：韓国妖怪考』南根祐[ナム・クンウ]訳，歴史民俗博物館振興会
- 日韓比較文学研究会編（2016）『翻訳『韓国口碑文学大系』1』金壽堂出版
- 김종대[金宗大/キム・ジョンデ]（1997）「도깨비신앙의 유형과 전승양상」（ドッケビ信仰の類型と伝承様相）국립민속박물관（国立民俗博物館）『민속학연구』（民俗学研究）第4号，pp 181-204
- 김월덕[キム・ウォルドク]（2007）「호남지역 여성주재형 마을굿의 상징성과 축제성」（全羅南北道地域 女性主宰系村クツの象徴性と祝祭性）한국민속학회（韓国民俗学会）『韓國民俗學』Vol.46，pp139-168
- 류경자[リュ・ギョンジャ]（2016）「구비설화 속 속신(俗信)의 형태와 구술담화적 기능－‘도깨비이야기’를 중심으로－」（口碑説話の中の俗信の形態と口述談話的機能：「ドッケビ噺」を中心として）동남어문학회（東南語文学会）『동남어문논집』（東南語文論集），Vol.1 No.42，pp5-39
- 류경자[リュ・ギョンジャ]（2017）「남해군 도깨비담의 전승양상과 성격」（南海郡ドッケビ譚の伝承様相と性格）안동대학교 민속학연구소（安東大學校民俗学研究所）『民俗研究』，第34輯，pp115-145
- 박종오[パク・ジョンオ]（2013）「도서연안지역 어로 관련 도깨비담에 나타난 도깨비

- 인식 - 전남지역 전승 자료를 대상으로」(「島嶼沿岸地域 漁業関連ドッケビ譚に表れるドッケビ認識：全羅南道地域伝承資料を対象として」) 순천대학교 남도문화연구소 (順天大學校南道文化研究所) 『南道文化研究(The Journal of Namdo Area Studies)』 Vol.0 No.24, pp159-184
- 박종익[パク・ジョンイク] (2003) 「구비설화에 나타난 도깨비의 정체성 고찰-충청지역 구비설화를 대상으로-」(口碑說話にあらわれるドッケビの実体性考察：忠清地域口碑說話を対象として) 어문연구학회 (語文研究学会) 『어문연구』 (語文研究), Vol.42, pp90-115
- 송기태[ソン・ギ테] (2011) 「도깨비신앙의 양가성과 의례의 상대성 고찰」(도ッケ비信仰の兩義性と儀礼の相對性考察) 남도민속학회 (南道民俗学会) 『남도민속연구』 (南道民俗研究) Vol.22, pp169-194
- 張籌根[チャン・ジュ겐] (1969) 「部落 및 家庭信仰」(第三篇「民間信仰」第二章) 文化公報部 文化財管理局編 『韓國民俗綜合調查報告書. 全羅南道篇』
- 韓国地図：行政区域&韓国人口 (www.KAMPOO.com)
http://www.kampoo.com/map/south_korea_map_dosigundo_japanese.htm (2022. 03. 31 最終閲覧)